

令和5年度札幌国際芸術祭実行委員会事業計画書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 札幌国際芸術祭 (Sapporo International Art Festival、略称：SIAF^{サイアフ}) 2024 開催概要

(1) 名称

札幌国際芸術祭 2024 (SIAF2024)

(2) テーマ

LAST SNOW (ラストスノー)

(3) サブテーマ

はじまりの雪 (日本語)

Where the Future Begins (英語)

Upaste(ウパシテ) (アイヌ語)

(4) 会期

令和6年(2024年)1月20日(土)～2月25日(日)

※以下の会場は別会期 (予定)

・さっぽろ雪まつり大通2丁目会場…さっぽろ雪まつり開催期間に準ずる

・札幌芸術の森美術館…令和5年(2023年)12月16日(土)

～令和6年(2024年)3月3日(日)

(5) ディレクター

小川 秀明 (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表/アーティスト)

(6) 会場

東1丁目劇場施設 (旧北海道四季劇場)

さっぽろ雪まつり大通2丁目会場

札幌文化芸術交流センターSCARTS

北海道立近代美術館

モエレ沼公園

札幌芸術の森美術館

地下公園

(7) 企画体制

ア 企画担当

細川 麻沙美（札幌国際芸術祭実行委員会事務局統括マネージャー）

漆 崇博（札幌国際芸術祭実行委員会事務局マネージャー）

中村 聖司（北海道立近代美術館学芸副館長）

宮井 和美（モエレ沼公園学芸員）

佐藤 康平（札幌芸術の森美術館事業係長）

イ デザイン

アートディレクター：ワビスビ

デザイナー：白井 宏昭

(8) SIAF2024 の目指すビジョン（3つのC）

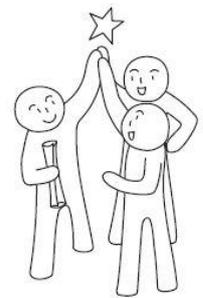
ア **創造エンジン** Engine for Creativity（=未来思考が起こる仕掛け）

・SIAF2024 が未来に向かう原動力やイノベーションを触発する

機会として構想

・これからの社会への問いと未来への実験を体験する

「未来への実験区」を設定

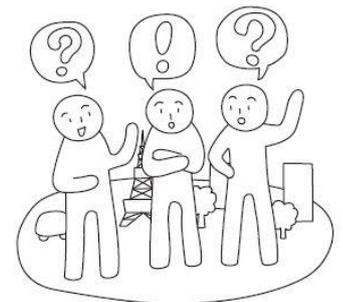


イ **文化インフラ** Cultural Infrastructure（=未来を垣間見る体験を提供）

・ハード面⇒未来を体験する展示空間「未来劇場」の誕生

（東1丁目劇場施設）

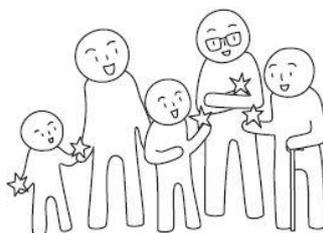
・ソフト面⇒発見・体験・学びの場「SIAF スクール」展開



ウ **市民参加** Citizen Participation（=市民や企業の参画、社会のためのアート）

・「SIAF スクール（再掲）」を軸とした多様な市民参加の枠組みを設置

・公募プロジェクト「みんなでウパシテ（仮称）」の始動



(9) 各会場の企画・参加アーティスト等

ア 100年前－現在－100年後の時間旅行

1924年から2124年までの200年の、時間の重なりや繋がり、変わるもの、変わらないものなど、過去と未来を体感・創造する会場展開

未来
2124

■未来劇場（東1丁目劇場施設）（札幌市中央区大通東1丁目）

文化インフラ

「100年後の未来を考える場所」

多くの舞台公演が行われてきた東1丁目劇場施設（旧北海道四季劇場）を巨大な展示空間である「未来劇場」に転換し、来場者がそれぞれに100年後（2124年）の未来を捉え、考えてみるきっかけとなるような1つのコミュニティーとして出現。

現在
2024

■札幌文化芸術交流センター SCARTS（札幌市中央区北1条西1丁目）

「SIAF2024の旅を始める現在地」

現在（2024年）を体現したSIAF2024を繋ぐハブ会場として、SIAF2024の各会場を巡るために必要な情報を提供するインフォメーション＝SIAF2024ウェルカムゲートを設置。

過去
1924

■北海道立近代美術館（札幌市中央区北1条西17丁目）

「キーワードは『フラジャイル＝取扱注意』！？」

“Fragile（フラジャイル）”は「取扱注意」を意味し、海外から美術作品が送られてくる際、運搬者や学芸員に注意を促すため梱包箱に印字する言葉。もろい、壊れやすいけれども、注意すれば取り扱えることができ、ふたを開けてみれば素晴らしい何かが発見できるはず。そうした“フラジャイル”のもつ「あやうさと希望」を「LAST SNOW」というテーマに重ね合わせ、過去（1924）～現在（2024年）の100年にフォーカスした展示を行う。

イ 未来の実験区

これからの社会への問いと未来への「実験を体験する場」の設定

創造エンジン

■さっぽろ雪まつり大通2丁目会場（札幌市中央区大通西2丁目）

「さあ、雪と未来の実験区へ」

さっぽろ雪まつり会場を「実験区」として、これからの札幌における冬の暮らし方や楽しみ方を、アートを介して模索する。この実験区を1つの街に見立て、幅広い層が楽しめる大型作品や多彩な企画を紹介し、その街ににぎわいをもたらす。

■札幌芸術の森美術館（札幌市南区芸術の森2丁目75）

「メディアアートの楽しさ発見！」

ユネスコ創造都市ネットワークの「メディアアーツ都市」札幌において、メディアアートとはどのようなものなのか、その歴史を紐解くとともに、メディアアートの制作やパフォーマンスを縦横無尽に展開してきた芸術ユニット「明和電機」の作品展示を通じ、アートの楽しさを体験できる会場展開とする。

■モエレ沼公園（札幌市東区モエレ沼公園 1-1）

「『雪×スポーツ×テクノロジー』で未来のスポーツをつくる」

運動会の種目をつくるワークショップとその種目をテクノロジーやダンス、音楽など様々な要素を取り込んだ新感覚のスポーツとして参加者と一緒に考えていく参加型プロジェクトを開催する。

協力：一般社団法人運動会協会

■地下公園（札幌市内某所）

SIAF2024 の期間中、市内某所の地下に、札幌の冬の未来を考える公園が出現予定。SIAF と NoMaps が初めて本格的に連携。創造都市さっぽろの象徴的展開。

(10) イニシアティブパートナー（五十音順）

SIAF2024 が目指す方向性である、社会課題へ向き合い未来志向で解決に取り組むことに共鳴してくれた方々と企画や準備の段階からさまざまな形で連携し、協力していく。現段階のパートナーは以下の通り。

- ・株式会社良品計画
- ・株式会社ワコム
- ・大日本印刷株式会社
- ・パノラマティクス
- ・『WIRED』日本版

(11) チケット

SIAF の市民浸透につなげるため、市民割引を設定するとともに、会場への周遊促進のため、複数会場の入場が可能なパスポート等を導入する予定。

2 普及プログラム

(1) SIAF スクール

ア LAST SNOW レクチャー

アーティストや専門家から学ぶ公開講座を実施する。未来の札幌の様々な要素を、各分野の専門的な見地からわかりやすく解説するレクチャーシリーズとして、誰でも参加できるプログラムを提供する。

参加募集開始予定：令和5年（2023年）4月

実施時期：令和5年4月～7月頃

内容：全7回程度（レクチャー形式、ワークショップ形式を想定）アート、アイヌ文化、まちづくり、気候変動等をテーマに、SIAF2024 参加作家を含めた専門家によるレクチャー等を実施する。

イ ふむふむプロジェクト(サポート活動)

SIAF2024 で、会場案内や鑑賞サポート等のボランティア活動に協力していただける方を対象とした研修プログラム。自ら参加するステージを選ぶことができる仕組みを提供し、SIAF2024 のおもてなしスペシャリストの養成を目指す。

参加募集開始予定：令和5年（2023年）4月

内容：ビジターガイド～会場案内を中心とした、来場者サポート

エキシビジョンガイド～作品ガイドを中心とした、来場者の体験サポート

ウ つながる×ひろがる×学校(子ども向けプログラム)

札幌市内の小中学生を対象にプログラミングを活用し、自分だけの雪の結晶を制作することができるアプリケーションを使った体験プログラムを展開する。オンラインでの参加・体験プログラムのほか、アーティストが札幌市内の小中学校に訪問してワークショップを実施。プログラミング+デジタルによる芸術表現を体験する機会を提供するとともに、作った雪の結晶を SIAF2024 の会場に生かす展開も検討中。

参加アーティスト：フジ森

参加募集開始予定：令和5年（2023年）4月

(2) SIAF ラウンジの活用

ア SIAF ラウンジにおける情報発信

札幌市資料館内にある「SIAF ラウンジ」を活用し、当該国の重要文化財施設を訪れる観光客等の来場者に対し、SIAF に関するアーカイブ（冊子、写真、動画等の記録資料）や今後の活動に関する情報を提供する。さらに、会期中には、SIAF2024 と連動した企画を展開することも検討中。

イ SIAF ラウンジオンライン

SIAF ファンやアートファンとの継続的な関係性を構築するため、オンライン会議システム Zoom を活用したオンラインサロン「SIAF ラウンジオンライン」を定期的で開催する。ゲストスピーカーや国内外からの参加者による双方向のコミュニケーションが可能な場を提供する。

(3) SIAF ラボの活動

札幌・北海道の環境をアートやテクノロジーの視点から捉え直す「SIAF ラボ」の活動を通じて、SIAF を支える文化の土壌づくりや、札幌ならではの文化・芸術の醸成と発信を目指す。SIAF2024 では、3年に渡って継続してきたプロジェクトの成果発表を予定。

【主な活動メンバー（予定）】

氏名	肩書
久保田 晃弘	アーティスト／多摩美術大学メディア芸術コース教授
小町谷 圭	メディア・アーティスト／札幌大谷大学芸術学部准教授
石田 勝也	札幌市立大学デザイン学部講師
船戸 大輔	エンジニア／株式会社アートフル代表取締役
平川 紀道	アーティスト

(4) その他プログラム

SIAF2024 に向けて、下記公募プロジェクトや継続事業等を含め、会期前から、市民、組織、企業などの皆さんと一緒に走り出せるようなプログラムを立ち上げていく。さらに、37 日間の会期中には、展示以外の要素でも楽しみ、より多くの層が SIAF2024 にアクセスできるプログラムも検討していく。

ア ウパシテプログラム（公募プロジェクト）

雪＝ウパシに由来するアイヌ語サブテーマ「ウパシテ」には、「未来に向けて走り出してみる、互いに気づきあってみる」という意味合いが込められており、この「ウパシテ」をキーワードとした、皆さんの参加を呼び掛けるプロジェクトを検討中。

イ SIAF ラウンジオンライン（継続事業）

再掲(2 普及プログラム(2)イ参照)

ウ SIAF 部（継続事業）

アートマネジメント等のスキルを習得することができる人材育成プログラムとして、定期的なミーティングや現代アート・アートプロジェクトに関するレクチャーを実施するほか、イベント現場での実践的な活動を行う。

エ ポットキャストプログラム（継続事業）

オンライン上で音声を公開するシステムを活用し、ディレクターやアーティスト等が出演するトークシリーズを展開する。さまざまな切り口からアートを身近に感じる内容とし、LAST SNOW レクチャー等と連動した企画を実施する。

3 広報プロモーション

(1) プレスリリース（記者発表）

10 月にアーティスト情報を含むプログラム詳細、チケット情報、交通情報等について記者発表を行う。また、会期前から始まるプログラムなどについて定期的にプレスリリースを行い、各メディアに対して丁寧に情報発信することで、さまざまな媒体の露出機会を確保していく。

(2) 市内大型ビジョン等を活用した情報発信、会期中の祝祭

感演出

テレビCM、チカホ壁面、市内大型ビジョン等を活用した広告を展開し、市民の認知度向上及び来場者数増につなげる。また、市内各所でのポスター、バナー掲示など期間中の祝祭感を演出する。

(3) 特設ウェブサイトの構築、SNS を活用した情報発信

SIAF2024 に向けた新しいウェブサイトを構築（R5年4月中旬リリース）し、さまざまな情報に分かりやすくアクセスできる状態にするとともに、SNS等を活用した広告展開も実施し、SIAF2024 の期待感醸成を図る。

(4) その他

旅行代理店やホテルと連携した情報発信や、海外の美術関係者が閲覧するメールマガジン、創造都市ネットワークメディアアーツ都市加盟都市のウェブサイト等でのPRを図る。首都圏では、開催年度が共通する都市型芸術祭「さいたま国際芸術祭」「横浜トリエンナーレ」との3市連携を予定している。